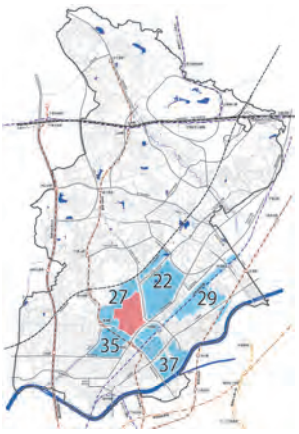
景域 28　出口町・片山町界隈



片山公園のまとまった緑を中心に大学や公共施設などにより形成される景観

地形

ＪＲ吹田駅の北側に位置し、平野から丘陵へ向かう緩やかな斜面地となっており、南側沿道からは片山公園の大木を望むことができます。

歴史

片山神社は、平安時代に地域で焼き物に関わる人が陶芸の祖神として素戔嗚尊を祀ったことを由来としています。

昭和 40 年代に片山公園周辺に公共施設が立地し、近年には公園東側に大和大学や商業施設などが開学、整備されました。

土地利用

片山公園や企業所有の庭園など、多くの緑があり、片山神社の赤い鳥居が目を引きます。

また、その周辺には大学、図書館などの公共施設、商業施設などが立地しています。

都市活動･暮らし

大学へ通学する学生や企業関係者が行き交っています。また、多くの市民が図書館や体育館などで楽しみ、公園や庭園でくつろぐといった多様な活動が行われています。

片山公園の桜

大和大学

景観特性

景観まちづくり方針

公園や敷地内の緑を活かした潤いある空間をつくり、まもるとともに、にぎわいや暮らしの活動をはぐくむ

「潤いのある景観」をまもり、はぐくむ

○片山公園や大学内の豊かな緑などを保全し、育成に努める。
○斜面緑地の保全に努める。
○樹林・樹木の適正な維持管理に努める。

「生きる景観」をまもり、はぐくむ

○地形になじみ、周辺の景観に調和する建物づくりに努める。
○落ち着きの中にも地域の特徴や表情、活気の感じられる空間の創出を図る。
○敷際に花や緑を演出し、緑豊かな景観の形成を図る。
○連続性や回遊性があり、にぎわいと楽しさの感じられる、沿道の景観づくりに努める。
○祭りやイベントの舞台となりえる空間を創出し、人々のアクティビティを誘発する景観づくりに努める。
○眺めを楽しみ、歩きたくなる景観づくりや憩いの場となる空間の演出に努める。

「調和と個性のある景観」をつくり、はぐくむ

○大学内のオープンスペースを活かす、あるいは公園などの公共空間との一体化などにより、ゆとりある景観の形成を図る。
○壁面や高さ、色彩を周囲と調和させ、まとまりが感じられる景観の形成を図る。
○建物の配置やデザインを工夫し、緑化などにより、開放感があり、洗練された質の高い景観の形成を図る。
○沿道施設と住宅地との調和を図る。
○街路樹により潤いを高め、道路の舗装や街路灯などにより連続性や統一感を演出する。
○沿道施設との一体整備やバリアフリーへの配慮など、安全で快適な歩行者空間の形成を図る。
○電飾や奇抜な色彩の使用を控え、大きさや設置方法を工夫し、広告物の集合化を図るなど、周囲に調和する広告物の掲出に努める。
○魅力的な公共空間の創出に努め、地域の魅力となる景観拠点の形成を図る。
○景観資源をまもり、はぐくむ。
○大学などやその周辺における、活気の中にも落ち着きのあるまちなみの形成を図る。
○照明灯の色温度や配置・配光などで夜間景観の演出を図る。
○誰もが眺望を楽しめる場として、眺望点の活用を図る。
○公共空間から眺められることも考慮した建築物等をつくり、良好な景観の形成に努める。

配慮すべき近隣の景域　**景域 22，27，29，35，37，45**